

IX 特色ある公民館活動

「そだてて広げる永西の和」

北九州市立永犬丸西市民センター 館長 島津 文子

はじめに 北九州市立市民センターの変遷

- ・昭和 26 年から平成 6 年度までは、おおむね中学校区に一館の公民館設置。
- ・平成 7 年度から、小学校区毎に一つの市民福祉センター設置開始、既存の公民館がある所は公民館と市民福祉センターの二枚看板を併用。主な機能は地域住民の保健福祉活動・コミュニティ活動・生涯学習活動・防災活動等。管理運営については、北九州市から委託された「まちづくり協議会」（自治会はじめ多様な地域活動団体で構成）とセンター協働で行う。
- ・平成 17 年 1 月から、環境や防犯活動等の機能も付加され、市民センターと一新、現在 129 館と 2 サブセンター設置。
- ・50 数年の歴史を持つセンターもあるが、当センターは 9 年目の若いセンター。



1) 地域の概要

- ・北九州市八幡西区の中西部、中間市や遠賀郡水巻町と隣接した位置。
- ・世帯数約 2 7 0 0 戸、住民約 6 0 0 0 人。
- ・地域住民の志は高くセンターを学びの場・ふれあいの場・健康づくりの場として活用。
- ・戦後の高度成長期、北九州工業地帯のベットタウンとして開発された静かな住宅地。
- ・昭和 47 年に創立された永犬丸西小学校は地域のシンボリック的存在。
- ・子どもの見守り活動の実践者も多く、地域全体が安心・安全に包まれている。
- ・年長者の一人暮らしや夫婦二人暮らしの世帯が多く、高齢化率は 36 パーセントを超えていて、今後いかに「地域の和」をそだて、広げていくかということが大きな課題。

2) 事業の目的

- ・課題克服のため、「そだてる」ということをキーワードで諸事業を進めることにした。市民センターを拠点として、多くの人が「そだてる」活動を通して、
 - ☆にぎわいのある、笑顔あふれるまち
 - ☆年長者の知恵や技が活かされ、生きがいのあるまち
 - ☆交流の深まりにより、人情、信頼のあふれるまち
- 「え(笑顔)、い(生きがい)、に(人情)、し(信頼)」・「永西の和」を広げる。

3) 主な事業の内容 ◎センターとまちづくり協議会共催事業。

その1 《おいも大作戦》

「豊かな経験をお持ちの年長者とシャイで控えめな永西っ子を出会わせたい！」との館長の願いから。

平成19年5月、センター北側の草も生えない岩盤状の空き地を地域の方々のご尽力で開墾。約3.5坪(畳7枚分)の立派な畑、完成。それ以来、敬意を込めてその方々を畑の達人さんと呼称。6月ーサツマイモの苗植え、夏休みの間ー親子で雑草取り、11月ー収穫、12月ー感謝の会



「おいもパーティ」の実施。子どもの「とっても楽しかった。次はカレーをいっしょに食べたい！」の声に、サツマイモをおいも大作戦<パート1>とし、ジャガイモをおいも大作戦<パート2>実施。平成20年度は、「豚汁も食べたい！」との子どもに込め<パート3>として、サトイモ作りに取り組む。センターボランティアさんの力添えで、子どもたちが温かい豚汁を作り、畑の達人さんはもちろん、いろんなボランティアさんたちやその他来館された方たちに振舞った。その感謝の会では、感謝状が子どもたちから渡されると、大きな拍手と共にみんな笑顔が広がった。平成22年度は、地域のまつりで収穫したサツマイモを大人が天ぷらにし、子どもが販売、大好評だった。



その2 《お花大作戦》

センターは、交通量の多い県道に面していて、心和む場所とはいいいがたいところ。

平成19年6月から、センタークラブ員や地域のボランティアグループ・フラワーロードの会の協力で、取組んだ。悪条件の土地の改良は大人が担当、小さいのちへの関心を持たせるため、子どもたちは種まき、苗植え、雑草取りを担当。センター花壇はもちろん、センター前の県道沿西山池(池の周りの道が遊歩道として活用されている河川水量調整池)に花や花木を植えた。平成20年度から、フラワーロードの会が、市の道路サポーターに登録し、北九州市の玄関口となる道路沿いの花の世話を年中行い地域に静かな賑わいが広がった。

その3 《永西太鼓》

平成20年度から「まつりで和太鼓の演奏を！」と、小学生に呼びかけ、5月に体験教室の実施、希望者が6月から半年間練習し、『永西まつり』が本番。

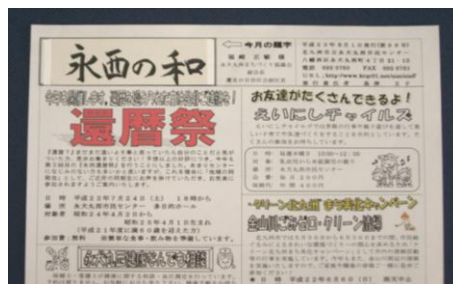
平成22年度は、指導者の創作曲「永西の光」を力いっぱい演奏した。また、1月の《どんと焼き》では、竹太鼓を響かせ、「是非、続けて欲しい！永西太鼓をこの地域の伝統文化に！」と、多くの声援を貰った。

地域に子どもたちの元気が響いた。



その4 《還暦祭》

地域の「人の和をそだてる、広げる」、
《永犬丸西校区還暦祭》を平成20年度から始めた。対象者は満60歳になられた方を、センターだよりやチラシで呼びかけた。当日はまちづくり協議会が準備した赤い羽織ちゃんちゃんこの着用、まちづくり協議会やセンターの紹介・参加者の自己紹介等、定年を機に地域に目を向けるきっかけづくりをしている。昨今の諸事情から、還暦後も勤めを続けられる方は多いのですが、「仕事に区切りがいたら、仲間に入れてください！」と、地域の和づくりに好意的。「熟年の方の、団塊の世代の方も含めて、地域デビューのきっかけに！」との思いが通じ、人の和が地道に育っている。



4) 事業の成果

「八幡西区一高い」といわれる高齢化率の当地区は、多くの経験をもたれた方々が住まわれている、知恵や技のいっぱい詰まった地域。

- * 大人の知恵や技を子どもたちが直に学ぶことができ、「土に触れることは汚いこと汚れること、鍬や鎌は怪我するもので危ないもの、野菜は嫌い。」と、消極的だった子どもたちが活動するうちに積極的に取り組むように変わった。子どもも大人も笑顔で活動し、安心や信頼が深まった。
- * 新たな仲間との出会いがあり、「花が咲いていて癒される！」等の声に、やりがいや使命感を感じながら、地域づくりを仲間と笑顔で進められた。
- * 地域の伝統文化として期待される和太鼓、毎年30名前後の永西っ子が、「子どもたちの元気が地域のにぎわいづくりに！」と、太鼓を響かせることができた。
- * 地域の行事の参加がきっかけとなり、「新たな人とのつながりができた。」と、センター講座やボランティア活動に入られる方もいて、心強い人の和が育ってきた。

◎ さまざまな活動を通して、人の和、「永西の和」が広がった。

5) 今後の課題

- * まちづくり協議会もセンターも歴史が浅く、共催事業は取り組み始めたものばかりで、継続することが重要で、人とお金の確保が必須だ。
- * 地域のみなさんにこの活動を理解・賛同してもらえるように、真摯に取り組むことが必要だ。

問い合わせ先 〒807-0852 北九州市八幡西区永犬丸西町4丁目21番13号
北九州市立永犬丸西（えいのまるとし）市民センター 館長 島津
TEL (093) 692-5760